

国立大学法人三重大学の平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

三重大学は、建学以来の伝統と実績に基づき、基本的な目標として掲げる「三重の力を世界へ：地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す～人と自然の調和・共生の中で～」の達成を一層確固たるものにするため、その実践に努めている。第2期中期目標期間においては、幅広い教養の基盤に立った高度な専門知識や技術を有し、地域のイノベーションを推進できる人財を育成するための「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」、「生きる力」の「4つの力」を養成すること等を目標としている。

この目標達成に向け学長のリーダーシップの下、「『4つの力』スタートアップセミナー」の拡充等能動的学習の推進、共通教育及び専門教育との連携による三重大学ブランドの環境教育を推進等、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成24年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 男女共同参画推進活動を一層強化するため、「理工系の女性支援・ロールモデル研究部門」、「意識改革・啓発活動部門」、「連携部門」のワーキンググループを設置するとともに、共通教育での男女共同参画授業、女性企業家による講演会、男性の育児参加と輝く女性をテーマとしたトークセッション、地方自治体とNPOとの連携による学習会、情報発信、資料集作成等を展開しており、これらの取組は厚生労働省三重労働基準局発行の「三重における男性育児休業事例と両立支援取組企業好事例集」に掲載されている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載10事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（２）財務内容の改善に関する目標

- （①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善）

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 7 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

（３）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

- （①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進）

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 3 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

（４）その他業務運営に関する重要目標

- （①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守）

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 学生等が自主的に行った環境保全、環境再生支援（環境教育）、省エネ活動に対する「個人の努力」をメールで登録させ、これをポイント化する環境ポイント制度「MIEUポイント」を実施し、107 名がポイント（ポイントは文房具等と交換できる。）を取得している。

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

- 教員が実験結果を不適切に転用して投稿していた事例があったことから、研究倫理教育の強化を図るなど、再発防止に向けた組織的な取組を行うことが求められる。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 8 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるほか、平成 23 年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 学生の能動的学習態度育成を推進する (Problem/Project - Based Learning) 型教育について、平成 24 年度は全学で 584 科目 (対前年度比 28 科目増) 開講するとともに、PBL の代表的開講科目である初年次教育科目「『4つの力』スタートアップセミナー」について、これまでの成果をもとに全学統一テキストの全面的な再改訂を行っている。
- 「持続発展教育 (ESD) プログラム」について、主題テーマに「環境と持続的発展教育」を導入するなどの拡大を実施し、平成 24 年度は入学者のうち 268 名 (19.4%) が修了している。
- 学生総合支援センターに、障害のある学生の学修及び研究支援を行う「障がい学生支援室」を平成 25 年度に設置する準備を進めるなど、組織的學生支援強化の充実に取り組んでいる。
- 黒潮流域における生物資源と環境・食文化教育のための教育関係共同利用拠点に認定されている練習船「勢水丸」については、近隣の練習船を保有しない高等教育機関等の 190 名 (対前年度比 40 名増) が航海実習に利用しているほか、「もっと活かそう三重の海の幸」をテーマに「教育関係共同利用拠点シンポジウム」を開催 (161 名が参加) している。
- 三重県の防災・減災活動を担う人材を育てる「三重さきもり塾」では、第 3 期生となる特別課程生 14 名、入門コース生 48 名が卒塾しているほか、これまでの卒塾生のネットワーク「さきもり倶楽部」では教育委員会主催の防災シンポジウムにパネリストとして参加するなどの活動を行っている。
- 日中韓を中心とする東アジア及び日本・タイ・インドネシアを中心とする東南アジアの二つのネットワークを軸としてインターンシップ等を実施し、国際環境スペシャリストの育成に取り組んでいる。
- 名古屋大学と愛知教育大学との 3 大学間連携による「アジアを中心とする国際人材育成と大学連携による国際化の加速的推進」を積極的に推進するため、国際交流センターに新たに特任教員や客員教員を加え機能強化を図っている。

附属病院関係

(教育・研究面)

- 三重県内の研修協力病院が連携して多様な研修プログラムを提供する Mie Medical Complex (MMC) プログラムに、県下の病院から研修者 22 名を受け入れ、将来のキャリアパスを考慮した専門診療科での研修を支援するなど、早期段階でのプロフェッショナルの養成に向けた取組を進めている。
- 医学系研究科と連携して、伊賀地域医療学講座及び津地域医療学講座等を設置するとともに、優秀な教員を県内の各医療機関に配置することにより、医学部 1 年生の段階から地域で学習するシステムを構築している。

(診療面)

- がん登録を推進するため、県内がん診療連携拠点病院担当者の協力の下、実習形式の研修会を開催するとともに、病理診断医の協力による「病理診断情報を用いた地域がん登録支援」を行うなど、がん拠点病院以外の施設からの登録数の増加等を図った結果、平成24年暫定罹患数として、12,932件の登録を行っている。